

すべての子どもたちへの心理的，教育的援助のあり方

I 研究の内容

現代の子どもを取り巻く環境には，地域との交わりの疎遠化，核家族化や少子化等があげられる。また子ども達自身も，友達と遊ぶといっても一人ひとりがゲームや漫画に興じ，一人遊びとなんら変わらないような状況であり，人間関係，友人関係作りも容易ではない現実がある。そのせいか本来なら成長の過程で，自然に社会性を身につけ人とかかわりながら成長していくものであるが，それができないがために，学校が居心地がよく楽しい場所ではなくなってしまっている子ども達も少なくない。

このような現代社会に生きる子ども達すべてを援助しようとする枠組みが今注目されている。その枠組みでは，子どもに対する援助を，不登校，いじめなどの問題で分類するのではなく，子どもが求める援助の程度に応じて三段階に整理している。（参考書物 石隈利紀・田村節子著『チーム援助入門』図書文化）一次的援助は，「すべての子ども」への援助，二次的援助は，配慮を要する「一部の子ども」への援助，三次的援助は，特別に個別の援助を必要とする「特定の子ども」への援助とされている。

本部会では，ここ数年は，一次的援助であるすべての子どもたち対象の予防的援助に力を入れることが，問題の顕在化を防ぐことにつながると考えるようになった。意図的に自分作りを促す取り組みや人間関係の力を身につける取り組みをしていく必要性があり，その方策として，エンカウンター，アサーション，ブリーフセラピーなどを日常的な指導に取り入れてみようという研究を進めてきた。そして，これらを用いた学級指導などの授業実践を発表し合い，検証に努めている。

II 研究の具体的な内容と方法

1 学校教育相談についての理論学習と実践報告等

- (1) 構成的グループエンカウンター（個々が本音を出し合い，相互に認め合う体験）
- (2) ソーシャルスキルトレーニング（対人関係を上手にする技術）
- (3) アサーショントレーニング（自己尊重の自己表現）
- (4) ピアサポート（生徒自身が生徒同士でお互いの心をサポートし合う活動）
- (5) ブリーフセラピー（解決志向型アプローチ）
- (6) フィンランドメソッド（発想力・表現力を養うトレーニング）
- (7) フォーカシング（自分の気持ちと上手につきあうためのノウハウ）

2 専門家を講師に招いての研修

- (1) 講師 塩山中学校スクールカウンセラー 渋谷 園枝先生
- (2) 日時 平成23年8月1日（月）
- (3) 場所 塩山中学校
- (4) 内容 すぐに実践できる生徒理解

3 実践発表1

- (1) 日時 平成23年8月31日(水) 授業者 筒井 修子 教諭 (塩山中)
- (2) 題材 「 構成的グループエンカウンターを使った授業 ～共同絵画～」
- (3) ねらい 絵を書くことを通して、コミュニケーションを促進する。
- (4) 1年間の成果

塩山中学校では、2年生の全クラスでエンカウンターに取り組んでいる。エンカウンターを仕組むことにより、生徒の自己発見や人間関係づくりを促し、居心地のよいクラスを目指している。共同絵画は、年間3回実施した。本時(1回目)は、『私たちにとっての一学期』というお題で、班の全員が模造紙にクレヨンで絵を描いた。生徒は話し合いをしながら作業をすすめ、お互いのコミュニケーションをはかることができた。他にも様々なエクササイズをして、QUの要支援群から学級満足群へ移行した生徒が多数見られ、大きな成果があった。

実践発表2

- (1) 日時 平成24年1月25日(水) 授業者 堀内 美紀 教諭 (牧丘第一小)
- (2) 題材 「 構成的グループエンカウンターを使った授業 ～☆いくつ～」
- (3) ねらい 自分のよいところを再認識したり、友達のよいところを発見したりして、お互いを認め合うことができる。
- (4) 1年間の成果

主に、道徳の授業の前にエンカウンターを実施した。そのためか、子ども達は道徳の時間を楽しみにするようになった。エンカウンターを実施していくうちに、授業に無関心な児童がすすんで関わるようになったり、自分のしたいことを最優先する児童が、正しく生活しようとするようになったり変化が現れてきた。

III 成果と課題

1 成果

- ・研究テーマに基づいて各自が学習した理論や方法を持ち寄り、それらを部員が共有することができた。また、使えそうなスキルを実際に使って、道徳や教科に還元することができ成果があった。
- ・スクールカウンセラー等、その道に詳しい人から講義していただき、支援が必要な生徒への接し方や声かけ等、すぐに実践できる内容で大変有意義だった。
- ・小・中学校両方の部員がいることも視野が広がり、プラスになった。

2 課題

- ・今年度は、新しくフィンランドメソッドの実践を学ぶことができた。来年度も今年度同様、これまでの様々な技法を実践しつつ、新しい技法を学べるようにする。
- ・QUの見方や、エンカウンターとQUの組み合わせも視野に入れた取り組みも考えていく。
- ・来年度もう少し多くの人に(特に担任の先生方に)この部会に参加して欲しい。

(部長 堀内美紀)